令和4年度　古井小学校だより<第11号>
きかんしゃ
From-0 歳プラン2推進校
令和5年1月30日（月）

【学校の教育目標】
自分で考えて行動する古井の子

ツナとヒミツのいためもの

校長 渡辺英哉

～学校評価アンケート結果から考える②～

先週の給食は、全国学校給食週間の特別献立でした。なかでも25日（水）は、「古井小ふるさと給食～おいしいふるさと野菜で苦手克服献立」。こちらがその写真です。

この献立を考えたのが、給食もぐもぐ委員会の子たちです。さらに、3年生が社会科で勉強した「美濃加茂市の梨」についても取り入れられています。彼らが考案した献立に関する資料は、（ほぼほぼ）日報「しゅっぽっぽ」でも紹介してあります。→→→→

今回お伝えしたいのは、この献立作成に関わった「古井の子」たちの頑張りです。

とくに、給食もぐもぐ委員会の子たちは、今回の特別献立を考えるチャンスがあることを知ると、委員会スタート時の4・5月から、「あれやこれや」と考えを巡らせました。給食の献立を学校で考える機会と言うのは、これまでにもあったのですが、だいたいは、「食べたい」と思うもの、「好きなメニュー」などをイメージしてリクエストする感じだったと思います。

ところが、彼らの発想は、真逆と言ってもいいものでした。

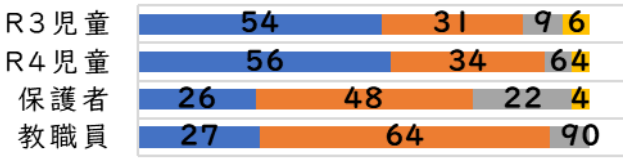
委員長を中心に、周りの子たちの給食での様子を観察しながら、「どうも野菜が苦手な子が多くて、そういう献立の時には残菜が多くなりがちだ」と気付いた彼らは、何と、あえて「苦手そうなもの」を取り入れた献立を考え始めたのです。給食センターの方にも来ていただいて、栄養について何回も勉強をし、相談を重ねました。その結果、「ツナとヒミツのいためもの」なんていうメニューも誕生したようです。

「子どもたちに任せたら、いろいろ考えてきて、一緒になって工夫できて、こんなに楽しい委員会は初めてでした」とは、担当の先生の振り返りです。

「苦手なものも入っていたのにおいしかったよ」他校からもうれしい言葉をいただきました。

献立一つと侮ることなかれ。これも立派に自分の社会を自分で創った事実の一つです。

③ 自分で自分の学級や古井小をより良いところや、より楽しいところに変えられると思う。



「古井の子」自身が、「自分で自分のいるところをより良く、より楽しく変えられる」そう実感できるよう、大人も一緒になって願いや悩みを共有する時間を大切にしていきたいです。